

館報

はだ



令和7年3月1日現在

世帯数	6,435戸
人口	15,193人
男	7,344人
女	7,849人

害獣対策

イノシシの水田への侵入を防ぐ



波田西部地区、水沢田地域と梓川堤防沿いの上川原地域の2ヶ所で、イノシシが泥浴び・ごろ寝・餌探しのために水田へ侵入し、畦を掘り起こして壊す等の被害が出ました。

そのため、2018年から地域の耕作者が組織をつくり、イノシシ対策を講じてきました。

2地域とも最初はガラガラと音を鳴らす機器を設置しましたが効果が出ませんでした。水沢田地域は山に住むイノシシが波田堰を渡って来ることで分かったため、波田堰沿いにソーラー発電を利用した電柵を設置しました。その結果、水田への侵入を防ぐことができました。春に設置し秋に片付けをし、月1回除草作業と点検を行うという運用をしています。

上川原地域は、梓川の河川敷に住みつくイノシシ対策として、動物が嫌うブルーLEDライト・コードを張りまし



上川原地域のブルーLED



水沢田地域の電柵

た。その結果、水沢田地域同様に効果が出ました。初夏に水田の畦に設置し、米の収穫後に撤去する、草刈り等は水田耕作者が行うという形で運用しています。

現状、イノシシの頭数削減は残念ですが進んでおりません。現在できることは、侵入を防ぐ対策を講じることのみになりますので、今後も検討を続けていきたいと思えます。



設置した金網柵

設置に際しては、地域の耕作者と協力し、作業を行いました。草刈り等は耕作者と組織で行っています。

昨年、梓川堤防を管轄する千曲川河川事務所に金網柵の設置申請を行い、許可が出た地域に設置しました。

しかし、水沢田地域については、日中に雨が降り続けると発電ができない、上川原地域については、作業と経年劣化でコードが切れる、といった問題が出てきました。

そのため波田地区地域資源保全活動事務局と千曲川河川事務所に相談を持ち掛け、より良い対策がないか検討しました。

5区 高山旅行記



6月23日に6年ぶりとなる地区の日帰り旅行を開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、大人20名、子ども1名に参加いただき、皆さんで楽しい時間を共有し、親睦を深めることができました。

高山市街地は江戸時代に城下町として栄えた古い町並みが残っており、松本と同じく外国人にも人気の街です。当日もあちらこちらで様々な言語が飛び交い、写真を撮っている様子が見られました。雨の街並みもまた違う趣があります。我々も食べ歩きや酒造での試飲に舌鼓を打ちました。

宮川沿いの朝市では地元の方と会話しながら、朴葉・赤かぶなど特産品のショッピングを楽しみました。



飛騨高山まつりの森は、山の斜面を掘削して造った地



中ドームの中に高山祭りの豪華絢爛なまつり屋台が多く展示されています。各屋台に飾られた彫刻の匠の技、10分ごとに行われるからくり人形ショー、日本一の大太鼓を見学し、昼食は併設レストランで飛騨牛御膳を堪能しました。

帰路に寄った飛騨大鍾乳洞は、日本一高所にある鍾乳洞であり、過去にテレビのニュースを賑わした「戻ってきた金塊」も有名です。この頃になるとバケツをひっくり返した様な雨になりましたが、洞窟なので見学に支障はありません。心配していた天気でしたが、旅程にあわせて天候が変わってくれたこと、道路閉鎖もなく無事に帰れたことは、皆さんの日頃の行いの賜物でしょうね。

三九郡



9区

ここ数年間にコロナ禍による中止や、対象となる学年の児童数が少ないなど、前年の経験による伝統継承が途絶えてしまう懸念がありましたが、工夫を凝らし何とか実施できました。今後時代が変化しても受け継いでいきたいものです。

15区



巳年生まれの代表児童がやぐらに点火！
勢いよく燃え上がり、仕込んであった爆竹の音に大きな歓声が上がりました。
振舞われた豚汁を食べながら、無病息災や豊作を祈願しました。



寒さも吹き飛ぶほど豪快に燃え上がる炎に子どもも大人も大興奮！
今は昔と違い、マシユマ口を持ち寄る家庭も。
今年も一年皆様が無事健康で過ごせますように。



18区

